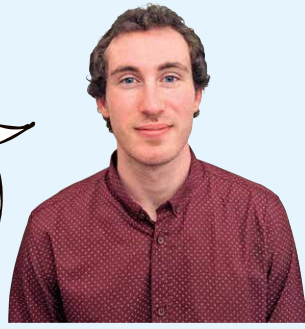


市では、フランスを中心とした欧米地域からのインバウンド誘客の推進を目的に、国際交流活動に従事する国際交流員（CIR：Coordinator for International Relations）を受け入れています。令和7年8月からは、フランス人のフランシエ・ドリアンさんが着任しており、今月号から、鳥羽市国際交流員フランシエ・ドリアンさんの日々の活動に関するコラムで連載します。



鳥羽市国際交流員
フランシエ・ドリアン

フランスと鳥羽をつなぐ架け橋として

私はフランス南西部にあるポルドーで生まれました。ポルドーは、ワインやカヌーで知られる街です。その後3歳からは、ジャンヌ・ダルクゆかりの地であるオルレアンで育ち、大学では語学と国際ビジネスを学びました。子どものころから国際交流に強い関心を持ち、新しい文化や価値観を学ぶことに大きな魅力を感じてきました。その背景には、家族との海外旅行を通じて、異なる文化に触れる機会が多かったことがあります。日本に惹かれるようになったのも、そうした旅の中での経験でした。高校時代に母と兄とともに日本を訪れ、日本

語そのものや、日本の美意識を支える思想に触れたことで、日本との関わりを将来の仕事につなげたいと考えるようになりました。この旅では、現在勤務している鳥羽市にも訪れ、御木本真珠島を見学したことを今でもよく覚えています。現在は国際交流員として、フランスの関係者を中心に、さまざまな分野での協力関



日仏海洋学シンポジウム

係の構築に関わっています。取り組みは幅広く、昨年11月には「第20回日仏海洋学シンポジウム」のような学術的なイベントにも携わりました。その中でも、特に力を入れているのが観光分野での取り組みです。

鳥羽市を訪れる外国人観光客の中でも、フランスからの来訪者は比較的多く、さらなる魅力発信の可能性を感じています。真珠はフランスでも高い関心を集めており、太平洋に位置するフランス領ポリネシアの島・タヒチ産の黒真珠を通じて、親しみを持つかたも少なくありません。また、欧米の旅行者は「本物の体験」や「地域とのつながり」を重視する傾向があり、海女文化のような鳥羽ならではの存在は、そうした期待に十分応えられるものだと考えています。

三重県、そして鳥羽市は、全国的に見ても観光資源の質が高く、多様な旅行スタイルに対応できる地域です。一人旅や家族旅行、団体、ビジネスなど、さまざまな目的の来訪者に対して、それぞれに合った滞在を提案できる点は大きな強みです。観光客数が比較的落ち着いているからこそ、一人ひとりに丁寧



トロさわら宣言

に向き合える環境があり、質の高い観光地域」としての価値を丁寧に伝えていくことが重要だと感じています。

多くのかたが「日常から離れて心を休めるため」に旅をする今、鳥羽市は東京や大阪といった大都市を巡る旅の途中に、静かに立ち寄れる選択肢としても魅力的な場所です。自然や文化、人との出会いを通じて、ゆったりとした時間を過ごしていただければと思います。

着任後の半年間は、市内のさまざまな場所を実際に訪れ、鳥羽の魅力を自分の言葉で伝えられるよう努めてきました。これからは、地域のみなさんとのつながりをより大切にしながら、鳥羽市の良さを国内外へ誠実に伝えていきたいと考えています。見かけた際は、ぜひ気軽に声をかけてください。

みなさん、はじめまして！

令和7年8月より、鳥羽市の国際交流員（CIR）として活動しています、ドリアンです。